

落谷虹児の絵本原画展

◆会期:2024年2/6(火)～4/14(日) ◆会場:落谷虹児記念館

◆入館料:[3/31(日)まで]一般・大学生510円(団体20名以上410円)、高校生210円、小・中学生110円
[4/2(火)より]一般・大学生550円(団体20名以上440円)、高校生230円、小・中学生120円

落谷虹児(1898～1979)は戦争で一時休刊していた雑誌が復刊すると、自宅を訪れる編集者から熱望されて1946年に挿絵の仕事を再開。『少女クラブ』や『令女界』、1947年に創刊された『ひまわり』など、さまざまな少女雑誌に描いている。『名作少女小説』や『世界名作童話』などの書籍の装丁や挿絵も手掛け、戦後も再び挿絵画家として活躍している。しかし、少女スターなど芸能人とマンガによって、少女雑誌のビジュアル化や娯楽化が進展していくと、1950年代中頃には雑誌の活躍の場がなくなり、『講談社の絵本』など児童向けの絵本が仕事の主軸となる。数々の昔話や童話を鮮やかな色彩と精緻な表現で描き出している。1958年には東映動画に参加して『夢見童子』に代表される、子どもたちに向けたアニメーションという新たな分野にも挑戦している。落谷虹児は後に書き残している。「(略)私は思う。子どもたちに、未熟な果物を与えてはならないように、未熟な、いやしい絵を与えてはならない。」と…(東映動画『夢見童子』のリーフレットより)



▲ 講談社の絵本「湖水の鐘」原画 1958年



▲ 講談社の絵本 ゴールド版「ふしぎなランプ」原画 1959年



▲ 講談社の二年生文庫「かぐやひめ」原画 1965年



▲ 講談社の絵本 ゴールド版「つるの恩返し」原画 1961年

プロフィール

落谷虹児

(くふきや こうじ)



落谷虹児25歳の頃

- 1898年(明治31年)
新潟県新発田市に落谷傳松と新保エツの長男として生まれる。本名 落谷一男(かつお)。13歳(明治44年)の時に母エツ死去。
- 1913年(大正2年)
15歳、同郷の日本画家、尾竹竹坡(おたけちくは)の内弟子となり上京。
- 1919年(大正8年)
構太放浪から帰京。22歳(大正9年)竹久夢二の紹介で『少女画報』に虹児の筆名で口絵を描いてデビュー。
- 1921年(大正10年)～1925年(大正14年)
23歳、朝日新聞の連載小説の挿絵に抜擢される。『令女界』『少女倶楽部』などに表紙絵や口絵を描き人気作家となる。『銀の吹雪』(大正11年)『睡蓮の夢』(大正13年)など詩画集9冊を出版。
- 1925年(大正14年)～1929年(昭和4年)
パリ留学。公募展サロン・ナショナル、サロン・ドートンヌに連続9作品入選。パリの有名画廊ジヴィーで個展。バ里通信を日本の各誌に送稿。
- 1931年～(昭和6年～)
帰国後、モダンな画風で一世を風靡する。松本龍子と結婚(昭和8年)。詩画集「花嫁人形」出版(昭和10年)。
- 1968年(昭和43年)
新宿の百貨店で「画業50年記念抒情画展」以後同百貨店で5回、個展を開く。
- 1979年(昭和54年)
中伊豆温泉病院にて急性心不全のため死去。享年80歳。



多彩な品揃え 落谷虹児記念館 ミュージアムショップ

- ・ポストカード 120円～
- ・クリアファイル 250円～
- ・一筆せん 350円～
- ・色紙 1,700円～
- ・額絵 1,200円～

落谷虹児記念館 (新潟県・新発田市)

- 【開館時間】 9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 【休館日】 月曜※但し、祝日の場合は休まず開館し翌平日に休館いたします。
年末年始12月29日～翌年1月3日
- 【交通機関】
 - お車でお越しの場合
日本海東北自動車道
新発田インターチェンジより約15分
 - 電車でお越しの場合
JR白新線・羽越本線「新発田駅」下車
徒歩約15分
 - 無料駐車場完備(約150台)
隣接する新発田市第3駐車場をご利用ください。
駐車場に入車の際はゲートで駐車券をお取りいただき、鑑賞後お帰りの際に記念館受付で無料処理を行います。
- 【所在地】 〒957-0053 新潟県新発田市中央町4-11-7
電話&FAX 0254-23-1013



記念館全景

駐車場完備 ▶ 駐車券を取って入車してください